



アマチュアオーケストラ

新交響楽団 第258回演奏会

The New Symphony Orchestra – 258th Concert

指揮 **坂入 健司郎**

SAKAIRI Kenshiro, conductor

バーバー | 管弦楽のためのエッセイ第2番

Samuel BARBER (1910-1981): Second Essay for Orchestra, Op. 17, 1942

ガーシュウィン | パリのアメリカ人

George GERSHWIN (1898-1937): An American in Paris, 1928

ドヴォルザーク | 交響曲第9番「新世界より」

Antonín DVOŘÁK (1841-1904):

Symphony No. 9 "Z Nového světa" (From the New World) in E minor, Op. 95, B. 178, 1893



PARIS UND UMGEBUNG, Handbuch für Reisende, 19. Auflage, Karl Baedeker, 1923

Design: IMAO Keisuke

池袋駅西口 Ikebukuro Station, West Exit

13:00 開場

2022年7月18日(月・祝) 東京芸術劇場コンサートホール 14:00 開演

Monday, July 18, 2022, 2:00pm (doors open at 1:00pm) at Tokyo Metropolitan Theatre, Concert Hall

入場料 S席: ¥3,000 A席: ¥2,000 (全席指定)

チケットのお申し込み: 新交響楽団ホームページ <http://www.shinkyō.com/>

チケットのお申し込み・お問い合わせ: コンサートイマジン03(3235)3777 *10:00~18:00 (日曜・祝日を除く)

・感染予防及び公演当日の混雑緩和のため、チケットの事前予約・引き取り・購入をおすすめいたします。

*点字プログラムを若干部用意しております。入口でお渡しいたしますのでお申し付けください。

*おそれいりますが未就学児のご入場はお断りさせていただきます。託児サービスをご利用ください (予約制・詳細は裏面)。

新交響楽団のホームページ <http://www.shinkyō.com/> 演奏会案内や曲目の解説、これまでの活動記録などがご覧いただけます。

新しい時代の指揮者 坂入健司郎

坂入は1988年生の34歳。幼稚園の頃からクラシック音楽にのめり込み、小学1年生の誕生日に『新世界より』のCDを複数種プレゼントされて指揮者の仕事に興味を持ったという。多くの指揮者と交流を持ちつつも音大には進まず慶應義塾大学からサラリーマンに。自分のオケを持ち働きながら指揮活動を続け昨年プロとして歩み始めた今大注目の指揮者です。

アメリカからチェコを想う『新世界より』

プラハ音楽院教授として地位も名声も手に入れたドヴォルザークは、51歳の時ニューヨークのナショナル音楽院の院長に招聘されアメリカに渡りました。受け持った学生の中には黒人もいて黒人音楽に触れ、元々鉄道ファンなのに加え船にも興味を持ち毎日のように波止場や鉄道の駅を訪れ、そして祖国を思いホームシックになりました。そんなアメリカ滞在中に作曲されたのが彼の最後の交響曲『新世界より』です。アメリカ的な要素がチェコの音楽と融合したドヴォルザークの最高傑作の1つですが、汽車や汽船も登場します。

ドヴォルザークがアメリカに滞在したのは3年間と短かったのですが、アメリカのクラシック音楽が独自性を持って発展するきっかけとなりました。

パリに行ったアメリカ人作曲家 ガーシュウィン

ガーシュウィンが音楽を学び始めたのは12歳と遅かったのですが、若くしてポピュラーソングの作曲家となり、多くのミュージカル・ナンバーを世に出すヒットメーカーでした。クラシック音楽に取り組んで管弦楽作品も残しており、『パリのアメリカ人』はニューヨーク・フィルの委嘱で書かれた交響詩です。同名の映画やミュージカルがあり最近も上演されていますが、実は音楽が先で後から物語がつけられたのです。20代の時に訪れたパリの街の様子が描かれ、当時の最先端のフランス音楽の要素を取り入れたシンフォニック・ジャズとなっており、パリを走る車のクラクションも登場します。

パリでラヴェルに弟子入りを志願しますが、「一流のガーシュウィンなのだから二流のラヴェルになる必要はない」と断られたのだそうです。

どうぞお楽しみに！(H.O.)

ご来場いただくお客様へ(新型コロナウイルス感染症対策)

当日は平熱と比べ高い発熱、咳・のどの痛み・倦怠感等の体調不良がある方はご来場をお控えください。

会場入り口でご来場の皆様の体温を測定いたします。会場内ではマスク着用し、咳エチケットやこまめな手洗い、手指消毒をお願いします。ほかの人との距離できるだけ空け、大きな声での会話はお控えください。クロークサービスは必要最小限(大型荷物のみ)です。出演者への贈り物はお控えください。

体調に不安がありご来場をお控えいただく場合や、当日の検温の結果入場いただけない場合は、チケット代を払い戻します。

詳しくはホームページにて注意事項や公演の最新情報をご確認ください。これらのお願い事項につきましては、状況により変更になる場合がありますので、ご了承ください。

今後の演奏会予定

<第259回演奏会>

2022年10月23日(日)14時 東京芸術劇場

指揮 寺岡 清高

曲目 J. シュトラウス2世/喜歌劇「ジプシー男爵」序曲、シューベルト/交響曲第3番、フランツ・シュミット/交響曲第1番

<第260回演奏会>

2023年1月14日(土)18時 東京芸術劇場

指揮 湯浅 卓雄

曲目 別宮貞雄/交響曲第1番、ストラヴィンスキー/バレエ音楽「春の祭典」(新型コロナの状況により変更になる可能性があります)

新交響楽団のプロフィール

新交響楽団は1956年に創立されたアマチュアオーケストラです。音楽監督・芥川也寸志(1925-89)の指導のもとに旧ソ連演奏旅行、ストラヴィンスキー・バレエ三部作一挙上演、10年におよぶ日本の交響作品展(1976年にサントリー音楽賞を受賞)、ショスタコーヴィチ交響曲第4番日本初演など意欲的な活動を行ってきました。

またマーラーの交響曲全曲シリーズ(山田一雄指揮、1979-90)、ベルリン芸術週間への招聘・邦人作品演奏(石井眞木指揮、1993)、伊福部昭米寿記念演奏会(2002)、石井眞木遺作「幻影と死」完全版初演(高関健指揮、2004)、ワーグナー「トリスタンとイゾルデ」演奏会形式公演(飯守泰次郎指揮、2006)など、幅広い活動を積極的に展開しています。

維持会のご案内 ～良いお席を安く～

新交響楽団維持会は、新響の演奏活動にご賛同いただき支援して下さる方々の組織です。集まった会費は、楽器購入や演奏企画に活用しています。会費は一口10,000円で、2年間有効の5枚綴りの回数券(どの演奏会でも一度に何枚でも使用可能)を差し上げます。良いS席を優先的に確保いたしますので当日その中からお選びいただけます。お申込みは郵便振替にて直接会費をお振込みください。郵便振替口座:00130-0-28074「新交響楽団維持会」

団員を募集しています

音楽監督の故芥川也寸志が長年にわたって主張し続けてきた「音楽はみんなのもの」を実践し、常に新しい視点を持って活動していくために、新しい力が必要です。何はともあれ、ぜひ一度練習をご覧ください。見学・オーディション等のお問い合わせはE-mail:shinky@music.nifty.jp

練習は毎週土曜日午後6時~9時、東京芸術劇場(池袋)、クラシック・スペース☆100(大久保)他にて。

演奏会当日の託児サービスのご案内

東京芸術劇場でのご鑑賞の際には、施設内の託児室をご利用いただけます。土日祝日を除く公演日一週間前までにご予約ください。対象年齢:生後3ヵ月から小学校入学前、1公演あたり2,200円(税込)お問合せ:株式会社ミラクス ミラクスシッター、電話0120-415-306(平日9:00~17:00、土日祝日休み)